

外国語科(英語)

言語活動「話すこと」の指導事項のポイントは何か。

- 1 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。

- ※ 文の中の「**強勢**」は、自分が強調したい内容のところを特に強く発音するときなどに用いられる。英語のアクセントは強弱であることから、語の中の強勢が適切な位置に置かれないと語の意味を正しく理解してもらえないことが多い。
- ※ 「**イントネーション**」は、文の最後を上げることで疑問の意味を表したり、はっきりと下げることで断定を表したりするなど、話者の意図を伝えるために大切な働きをしている。
- ※ 「**区切り**」とは、一連の音声の流れの中で区切ることのできる箇所のことである。
- ※ 「**英語の音声の特徴をとらえ**」としたのは、今回の改訂で小学校に外国語活動が導入され、音声面での一定の素地があることを受けたものである。

- 2 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

- ※ 適切な声量で明瞭に話すなど聞き手を意識し、的確な英語を使って、大切なところは強調して話したり、聞き手が分かりにくいところは繰り返したり他の表現で言い直したりなどして、「**聞き手に正しく伝える**」ことを示した活動である。
(例) 日常生活の日課や趣味、特技などの個人的なものから一般的・普遍的なものまで幅広く含む。

- 3 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

- ※ 「**聞いたり読んだりしたことなど**」とは、スピーチや視聴覚教材などを聞いたり、手紙や読み物教材などを読んだり、ポスターや図表などを見たりして理解したことである。
- ※ 「**問答したり**」とは、聞いたり読んだりなどした事柄について、理解を確実にしたり考えを深めたりするために、互いに分からない点や確かめたい点などを尋ねたり、答えたりすることを意味する。

- ※ 「意見を述べ合ったり」とは、生徒が単に聞いたり読んだりしたことなどを理解することにとどまらず、理解したことについて自らの感想や考えを伝え合うことである。

4 つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

- ※ 積極的に会話を継続し発展させていく態度や能力を育てるための活動であり、紋切り型の応答や一往復だけの言葉のやりとりで終わってしまうのではなく、必要な表現や技法を用いて会話を継続・発展させることを示している。

- ※ 「つなぎ言葉」とは、Let me see や Well など、言葉を続けるために用いられる表現である。

- ※ 「いろいろな工夫」とは、次のようなことが考えられる。

- ・ 会話を始めたり発展させたりするために、相手に質問をする。
- ・ 知らない表現については、身振り手振りや既習の表現などを使い、何とかして自分の考えを伝える。
- ・ 相手が話しやすいように、I see や Sure など、相づちをうつ表現を適宜用いる。

5 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

- ※ 与えられたテーマについて、自分の意見や主張を聞き手に対して分かりやすく話すという活動を示している。

(テーマの例)

- ・ 学校や日常生活における体験
 - ・ 自分の夢 など
- 生徒の学習段階や興味・関心に合わせて、適切なテーマを与えることが大切である。